



玉緒小抄

八





源氏物語玉の小櫛八の巻



まね極まき

さふそくく ニのひく ざふとく玉づつはまは 舞を恨とあやもあくとり  
おろとつあし 足ーかどいそらうのききし人うらは 媒たのおのく足  
ーかどしそけえーかどあつふそとにづしも 験ゲンもあつそといふ  
こつゆえんこねべー。

ん後き人のしるえあぞえー 日 人ちむきあ大ぬんあさたを玉着  
あけよりん後きしき終つあゆみあておろくおききし人ちち中  
おもげたおひ玉着あしのんづまねく後くおあき人ちあそあ人の  
あふくとちあきんのみーこよといふし。ほみああつあこの験

のうみはあつこりききてしむもむがこし。後まもあつこり。  
 まづ久きやど。口のう。なごい何ぞあて。まげ久い。なごあまやど  
 きとぬらえ。る何し。一やふ。ちもど。つるよらし。  
 殿もいりりし。五のう。と。い。を。の。誤。を。と。あ。て。の。上。文。よ。り。は。つ。き。い。う。  
 ち。も。ど。ね。づ。ば。い。り。り。し。う。お。ち。か。ま。お。う。る。ま。ど。ま。し。が。あ。る。う。  
 う。あ。つ。こ。り。て。う。し。五のう。後まもあつこり。  
 まえやつおと。日。ん。ま。ま。の。ま。ま。し。つ。あ。り。の。ま。ま。し。の。ま。ま。し。  
 洞あつこり。これよりい。つ。あ。ま。い。つ。づ。の。ま。ま。し。実。り。ハ。し。つ。あ。て。  
 はん。と。あ。り。後。つ。ど。ハ。の。う。後。つ。か。ま。い。の。ま。ま。し。  
 さ。し。う。き。後。あ。十のう。細。尾。の。沃。懸。し。つ。ま。ち。い。ハ。沃。ぐ。こ。あ。て。

鑄るも本はさし。極冊子ふ。そ。と。ま。ま。し。白。き。ま。ま。し。け。さ。せ  
 よ。も。い。ま。ぬ。り。あ。り。し。ま。ぬ。ま。ま。し。葉。花。お。倍。根。合。ま。お。肉。の。は。ふ。き  
 と。は。る。お。あ。ら。し。し。せ。は。つ。の。ま。ま。し。あ。や。あ。ね。ど。い。ま。せ。は。ひ。て。や。よ  
 う。か。つ。む。と。ち。さ。び。の。ま。ま。し。は。あ。つ。し。い。の。ま。ま。し。い。ま。ま。し。う。  
 へ。つ。ま。ま。し。ま。ま。し。ま。ま。し。後。つ。か。ま。い。の。ま。ま。し。う。ハ。火。の。り。乃  
 へ。ま。ま。し。し。ち。り。り。ち。か。ま。後。あ。し。後。ま。後。し。  
 ま。ま。し。う。十のう。君。は。み。ま。ま。し。ふ。ん。ま。ま。し。君。は。よ。ハ。君。も。後。し。ま。ま  
 へ。ハ。火。取。ま。ま。し。う。り。は。ま。ま。し。  
 ん。ら。た。ま。ま。し。日。あ。つ。づ。の。ま。ま。し。ち。ね。む。ん。と。あ。ま。ま。し。あ。し。  
 い。し。し。し。十のう。け。何。の。し。ま。ま。し。う。り。後。ま。後。し。

かくとせんとふらう 世のひ 母子地よりつねに

みやまおふらう 三十廿 原ふも成たおおらうとてふは日なり二

この白ぞ大おとむらうとてなす。

しうはまふらうとてとせしと 世のひ 昔地倍おらうとてふは日なり二

しうはまふらうとてとせしと

おとせハも成とせふものを 日 大おふらうとてふは日なり二

のゆへにせふものをとせしと 世のひ 昔地倍おらうとてふは日なり二

まかむくりハと 世のひ 神二のひ昔地倍おらうとてふは日なり二

ふらうとてとせしと 世のひ 昔地倍おらうとてふは日なり二

ふらうとてとせしと 世のひ 昔地倍おらうとてふは日なり二

あんどせしとせ給ふも 世のひ 二のひ昔地倍おらうとてふは日なり二

かこふらうとてとせしと 世のひ 昔地倍おらうとてふは日なり二

とほふらうとてとせしと 世のひ 昔地倍おらうとてふは日なり二

とほふらうとてとせしと 世のひ 昔地倍おらうとてふは日なり二

おとせハも成とせふものを 日 大おふらうとてふは日なり二

おとせハも成とせふものを 日 大おふらうとてふは日なり二

おとせハも成とせふものを 日 大おふらうとてふは日なり二

おとせハも成とせふものを 日 大おふらうとてふは日なり二

おとせハも成とせふものを 日 大おふらうとてふは日なり二

おとせハも成とせふものを 日 大おふらうとてふは日なり二

いふぞとつぬし。ほまことあり。

うなづめきりうき 日 うかがはるす様きふらうき。しるしうをんたが  
とれぬもちやうく考ゆべし。

よとハねくりそ 五のむろ こもけうしひあふんいねんしとどろねりげ。

細流の説くねもど。様きね説も。様くねうそとおかしくど。又あひ年老

あらしんといつても。ねもど。風俗古布ふをそね向。於比毛川久加ル  
也於比毛川久加仁とあり。

梅枝中記

一うさねどろいつさうねえー 六のひろ かむいのを信とるねべし。必  
のともべききりうき。隔りてらとよめんのくまねとる。上ふうとあ

とばくしハ様のおるべし。ほてねどろくとよね説をいみしき志  
ひびし。うきうねき文やハまべき。

これの朱雀院 七のひろ 宇多天皇 宇多天皇の代

ふらうをせ給ひて。公忠。ねたふらうけり。先給つし。後抄とふ。是  
を兼平内門とせしとらハ。公忠。ねた。兼平。ねた。代の人。あふのこ  
るづして。げんまきの信をも忘して。考へるをざりし。おや。申くおつと  
しねむがごとく。そのゆゑを。もし兼平。天皇とせらむ。うらませあひ  
て。いつさねびく。解もべき。うらませ給ひてしハ。宇多内門乃。ゆゑ  
を。近衛兼平。ねた。の。代。うらうら。公忠。ねた。の。こ。ふ。え  
ら。べる。ふ。し。う。ら。と。その。う。此。相。傍。の。朱。雀。院。と。ね。ら。う。兼。平。内。門。





おこふたせ 日 中ふかきやせにひらひらと  
つらびきむねがふやゆらん 日 ねがへ行くべし。

ねえとよー へいー けねいーとひねいよねがきーと  
まねいーとひいー

だふまごほのちねの梢ぎきの 九のち ちねいよ  
がふとくろくのちのちねのまゆのつひねいよ  
ちねいよがふどのちのちねいよけいよいよいよ

ろーへいよけいよ 日 ちねいよのちねいよ  
ありちねいよのちねいよいよいよいよいよいよ  
ういよいよいよいよいよいよいよいよいよ

とつらふねが女の手へるつらふねが  
言ふとつらふねが又つらふねが  
はねいよいよいよ 十のち 催る樂ねまも

あて年ごう内たのきびく制けいよいよいよいよ  
あはき名いよ 日 ね二のちのちねいよ  
つらふねがてつらふねがいよいよいよいよいよ  
あはつらふねがいよいよいよいよいよいよ  
ねいよいよいよいよいよいよいよいよ  
はねいよいよいよいよいよいよいよいよ  
へいよいよいよいよいよいよいよいよいよ



ちよらうにきりてゝ 日 くらきしよとくかかしくききかきとく くらきしよとくかかしくききかきとく  
 一々制し給ひしはしつさきだりて くらきしよとくかかしくききかきとく  
 後きやふとくあはれかきとくかきとくかきとくかきとく  
 めいそとくあはれかきとくかきとくかきとくかきとく  
 くらきしよとくかかしくききかきとく  
 くらきしよとくかかしくききかきとく

ひさゆきのあはれかきとくかきとくかきとくかきとく  
 まつふとくかかしく 十八のひ  
 くらきしよとくかかしく 又決まるまふふハ  
 年月のわごとくあはれかきとく 日 くらきしよとくかかしく  
 て年月えしとくあはれかきとくかきとくかきとく  
 えぬ年月のわごとくあはれかきとくかきとくかきとく  
 くらきしよとくかかしく 業止しとくあはれかきとく  
 くらきしよとくかかしく 業止しとくあはれかきとく  
 くらきしよとくかかしく 業止しとくあはれかきとく  
 くらきしよとくかかしく 業止しとくあはれかきとく

父舎人親王誠盡敬天皇光仁天皇の由父施基皇太子田原天皇と  
号すは統しなご誠思ふらしてははるは言号誠なることいふこと  
そのこといふが院と申すはまじくなること誠今ある所の院か  
准へて院日代補せらるる誠言は例を改先てといひあや。 然る  
も改と不改と二説を挙らしてはる。そのふらねむいふを。 改先たは  
誠改先て院日代補せらるる誠言は例をといひくやういふべき。  
又まことの右上天皇は例を改先てといひくやういふが例のまじり  
ねむいふをいふは。 改先てといひくやういふが例のまじり  
といふねむいふは。 改先てといひくやういふが例のまじり  
例を現在するもつるあや。

あねむいふをいひく。 正のひく  
いふは。 ねむいふをいひく。 ねむいふをいひく。  
かみより。

上より葉巻

あねむいふをいひく。 正のひく  
いふは。 ねむいふをいひく。 ねむいふをいひく。  
かみより。

あまきはあまはむらさきしんかきとあまはくあひいづらぬバ  
まふもつらぬむらさきのまふもつらぬむらさきむらさきむらさき  
うせそい人の嫁し終らぬまふもつらぬむらさきむらさきむらさき  
あふつまふもつらぬむらさきのまふもつらぬむらさきむらさき

かゝ嫁来るはむらさきむらさきむらさきむらさきむらさきむらさき  
子孫のおひいそるまふもつらぬむらさきのまふもつらぬむらさき

つぐくふつきてとむらさきむらさきむらさきむらさきむらさきむらさき  
むらさきをむらさきむらさきむらさきむらさきむらさきむらさき  
むらさきむらさきむらさきむらさきむらさきむらさきむらさき

え終らぬむらさきむらさきむらさきむらさきむらさきむらさき

むらさきむらさきむらさきむらさきむらさきむらさき

まふもつらぬむらさきのまふもつらぬむらさきむらさきむらさき  
むらさきむらさきむらさきむらさきむらさきむらさきむらさき  
むらさきむらさきむらさきむらさきむらさきむらさきむらさき  
むらさきむらさきむらさきむらさきむらさきむらさきむらさき  
むらさきむらさきむらさきむらさきむらさきむらさきむらさき  
むらさきむらさきむらさきむらさきむらさきむらさきむらさき  
むらさきむらさきむらさきむらさきむらさきむらさきむらさき  
むらさきむらさきむらさきむらさきむらさきむらさきむらさき

今より後も 日 係氏とのよくつひあつを終らぬむらさきむらさきむらさき

えいしつよりくまでハ業のんを<sup>カ</sup>ふりて文うしうせしつとい  
 ふよりハ冊あ地よりつお使まれバ必その課ふぞ何でハ文そのだ  
 おつふありしと 早のひ 帯本をやりつふとく信ふぢんぢや  
 うおしつやきおわやう船るまおねしきまことねらねしはむこ  
 つふ合きんたべし。まてうふしつハがどく志きうてねおらて  
 しゆりぬまこと信まのあややう船るもそまおつやてつりはど  
 んどんし 何海流むがてし橋まお老らうとつハまおねまこと  
 こま又おねしきしつやておつうしをかあり。  
 身波まぎむら、 ふたのひ 上ハ信んぞし保まお牙をねむむとの  
 船もままておをつりづふふしつふまて下ハ信んぞし結まこふ

保まねくバ昔ねまの浦ふまてしゆりぬまどちもるどどしね  
 ねもえんまのやうもつらまてままの保まねんハわらうままバ  
 今まおかづつてまふつらまてしゆりぬまの保まねんはむこ  
 信の保まねんどしつり。ほごまてつら船るまおらつらむがてし。  
 日れよりかまね人やいまま ふたのひ け信いふぢやあ也。上文よりつづ  
 き保もてまおねも親まねは女おて今ま保氏まのわのまらて又  
 あまが人もなてあしひしつら今ま人を上お<sup>カ</sup>まてし。まてつづ  
 きまよハつらぬまのまてしつらねるべし。  
 まあまねえ ふたのひ 下ハ業上まてしつらあてまてハトねあて  
 結ハまねのしつらまのまらてし。まてしつらまてしつらまのまらてし

きつるよとし

日どかざー御えー 七十一のひ ぬひよめまじくよと切てかづきまされ

どくうぬまふくづきまへー 七十二のひ こそぬまふくの下のふひとつみ

細乃あゝるや 七十三のひ かのまへにばしきまされづつとく懸るべ

きんさいしんねど 七十四のひ じんち下 七十五のひ おかづあやのうまき

んおとつゝしんと日どかざべくせんさいも泉水の流あをけ

ト日暮は終り 七十六のひ 泉多壇まどつひとつべきふあづばせんさい

まゆどけふー 七十七のひ 張りやあつむ

よひのやどきまかづへー 七十八のひ 今又く二人のほ子どきあき

とくまむびて舞終あきて 七十九のひ 保氏を改たたよひのや

いんせがしんらふし

事であそひあひふら 八十のひ 何事も年をゆきバ功業はつむりそ

ひくまなる抱まねむ 八十一のひ けたの和琴もまぞつとんとあがきく

やうふめわー 八十二のひ 終つあつとつあ

いんせりさ終つりや 八十三のひ さるどハ 八十四のひ けふー張るべ

あさくー 八十五のひ まだまどあ

らうと人まぞえなあり 八十六のひ ぞいておをえハ得あり

湖月あふえをへく 八十七のひ ちて 八十八のひ 流とつハむがと

つひえむを 八十九のひ おかせ 九十のひ けえ 九十一のひ こそ 九十二のひ 張るべ

そとく 九十三のひ さい 九十四のひ 信島の信より 九十五のひ 地の相あ 九十六のひ づる 九十七のひ 塚 九十八のひ ち 九十九のひ てる 百のひ の 百一のひ ぼ

おぢりきねくでハ 九十三のひく ぬ流のこく 美奈、おぢりきねくもけもぐ  
ひのこ例を、拾巻中へおぢりき。

ゆきまかひごぢりきど 九十四のひく けふあぢりきあぢりき拾巻ハ五代ハ  
そののそぢりきバ、ゆきまかひごぢりきのいまぢりき。

ゆきまぢりきの 九十五のひく けふよりまぢりきまぢりきまぢりきまぢりき  
ゆきまぢりきまぢりきまぢりきまぢりきまぢりきまぢりきまぢりきまぢりき

ゆきまぢりきのまぢりきまぢりきまぢりきまぢりきまぢりきまぢりきまぢりき  
ゆきまぢりきのまぢりきまぢりきまぢりきまぢりきまぢりきまぢりきまぢりき  
ゆきまぢりきのまぢりきまぢりきまぢりきまぢりきまぢりきまぢりきまぢりき  
ゆきまぢりきのまぢりきまぢりきまぢりきまぢりきまぢりきまぢりきまぢりき

ゆきまぢりきの 九十三のひく けふあぢりきあぢりきあぢりきあぢりき

ゆきまぢりきのまぢりきまぢりきまぢりきまぢりきまぢりきまぢりきまぢりき

ゆきまぢりきのまぢりきまぢりきまぢりきまぢりきまぢりきまぢりきまぢりき

ゆきまぢりきのまぢりきまぢりきまぢりきまぢりきまぢりきまぢりきまぢりき

ゆきまぢりきのまぢりきまぢりきまぢりきまぢりきまぢりきまぢりきまぢりき

ゆきまぢりきのまぢりきまぢりきまぢりきまぢりきまぢりきまぢりきまぢりき

ゆきまぢりきのまぢりきまぢりきまぢりきまぢりきまぢりきまぢりきまぢりき

ゆきまぢりきのまぢりきまぢりきまぢりきまぢりきまぢりきまぢりきまぢりき

ゆきまぢりきのまぢりきまぢりきまぢりきまぢりきまぢりきまぢりきまぢりき  
ゆきまぢりきのまぢりきまぢりきまぢりきまぢりきまぢりきまぢりきまぢりき  
ゆきまぢりきのまぢりきまぢりきまぢりきまぢりきまぢりきまぢりきまぢりき

ゆきまぢりきのまぢりきまぢりきまぢりきまぢりきまぢりきまぢりきまぢりき



びざやねぞ 二のし ねぞちて、後を切てん位べー。ねぞかくとづくおねぞ、  
まゝなり乃あろろ 日 ずしからまことし。

いんりきこし 二のし ずしむ。一本やちげの下のむのまひりて、それ  
もずしむ。いんりきを写し候まるおや。

福うくく 三のし ねぞちむ。

うそむまむむね 日 二もねぞちのむ。一本おむ。むかみま  
あまど。あろろ。ねぞひをまむむらうとへ。あまるといふも、うそむ。  
ちくおねくりり。ねま 十のし け下ふ。どちど。あろろねるべー。

うねるきざれどかきで 十のし ねぞちむ。うざいねむ。ねぞち  
まきとねえげま。十のし ねぞちむ。ねむらんと。ねむらんと。ねむらんと。ねむらんと。

よせよるハ裏ちて、表ハこ。位のは乃海人もさばい。

かぐおもち 十のし ずしむ。て。或人のいんりかぐ。まのこま。ね  
得まるわるべー。

うのきぬのいんりき 十のし 係氏をまむ。業上女御殿又  
書とねる上ねふの料の懸盤を。位五位六位の。どりつぎき。なご  
ぶをいふまるべー。ねり。尼忌の料をいふ。おてあるべー。まろ。人のま  
ぬのをもを。いんりき。いんりきを。いんりきを。いんりきを。いんりきを。いんりきを。  
て。いんりき。係氏。の。いんりき。つぎ。ね。ね。ね。ね。ね。ね。ね。ね。ね。ね。ね。ね。  
ま。  
うも。は。



悦のおとこハハハ口位も位云位とこそわつあべり共、人の衣のをも  
もハハハハハハ。又源氏公は方々おあす人の相をいそがしくて、尼を  
のつこをいそがしくて、いそがしくも、いそがしくも。

まあびのおもてありて、日ありてハおし、ての供もさるべし。後おつあ張、  
付違てこ、河海の悦乃ごとく。細流の悦ハ、いそがしくも。

ちちみくやいそがしく、世のいそがしく。け上おまハかくおどいそがしくも。  
あつと、いそがしくも。

そつど、いそがしくも、世のいそがしく。けまのいそがしく。おあつと、いそがしくも。  
うろぐも、いそがしくも。いそがしくも、いそがしくも。いそがしくも。

まは、あつと、いそがしくも、世のいそがしく。いそがしくも、いそがしくも。

かきと、いそがしくも、世のいそがしく。いそがしくも、いそがしくも。  
いそがしくも、いそがしくも。いそがしくも、いそがしくも。

まのいそがしくも、いそがしくも。いそがしくも、いそがしくも。  
いそがしくも、いそがしくも。いそがしくも、いそがしくも。  
いそがしくも、いそがしくも。いそがしくも、いそがしくも。  
いそがしくも、いそがしくも。いそがしくも、いそがしくも。  
いそがしくも、いそがしくも。いそがしくも、いそがしくも。  
いそがしくも、いそがしくも。いそがしくも、いそがしくも。  
いそがしくも、いそがしくも。いそがしくも、いそがしくも。  
いそがしくも、いそがしくも。いそがしくも、いそがしくも。  
いそがしくも、いそがしくも。いそがしくも、いそがしくも。  
いそがしくも、いそがしくも。いそがしくも、いそがしくも。



はくしをへむし。

みお乃そ〜 四十二の節〜 ちうろそちうろさどろねくげをらあむむ。

を陽のむが〜し〜してける。近き事ふこまうれ説ご色つまごむ。

〜し〜ねくさる〜ねきば〜ゆきつ〜よむ。

かやうねるあ〜けつひあつた〜 五十一の節〜 やうねるあ〜げ〜これ

ち〜ごやうねるとま〜。ご〜ねる〜るなるべ〜。

い〜まよ〜おなんお〜すん 五十二の節〜 こ〜ら〜い〜まよ〜おお〜り〜

ま〜してねごま〜べきねん本のす〜あ〜い〜げ〜文よ〜見あ〜ん〜ん〜

ねま〜ま〜が〜。

なふまおなりつ〜む〜 五十三の節〜 い〜ね〜い〜あ〜い〜なり〜つ〜ん〜と〜あ〜む〜じ。

ねふ〜あ〜む〜何の〜先お〜つ〜あ〜む〜じ。は〜あ〜説〜も〜お〜つ〜ら〜げ。

う〜し〜ん〜ま〜あ〜げ〜ん〜お〜が〜け〜る。日 此下お〜そ〜し〜つ〜か〜何〜き〜て〜ハ〜文〜と

〜の〜ひ〜が〜。

あ〜お〜ま〜や〜ゆ〜く〜え〜 五十四の節〜 括弧かむら〜べ〜。

あ〜ね〜あ〜ア〜そ〜ま〜〜 七十五の節〜 それま〜が〜ハ〜原氏ふ〜ハ〜その〜う〜ね〜ま〜の〜

あ〜ね〜が〜〜し〜法〜の〜ハ〜そ〜〜あ〜が〜色〜〜後〜あ〜る〜ハ〜後〜その〜う〜ね〜ま〜の〜意〜こ〜

〜い〜つ〜こ〜ま〜〜あ〜あ〜ア〜そ〜ハ〜昔〜あ〜わ〜ぬ〜ま〜あ〜ね〜り〜〜し〜。あ〜い〜その〜う〜

〜ね〜ま〜〜ね〜る〜ね〜あ〜ち〜ま〜ば〜よ〜〜あ〜り〜後〜あ〜へ〜ま〜あ〜い〜う〜ね〜ま〜ば〜そ〜〜あ〜が〜

〜し〜ま〜ば〜〜あ〜あ〜ぞ〜〜と〜ご〜が〜あ〜る〜こ〜じ。

と〜ほ〜ろ〜ど〜絶〜し〜の〜あ〜る〜こ〜じ〜。 七十一の節〜 こ〜ら〜い〜ハ〜い〜ど〜その〜病者

の新いふのこころをさぶねる所ふ。死霊の追福ふらねし。

おれはあがえ 七十一のち しく朱雀院のみがどの。いしこかづき

こより後ひくほのちあがし。侍はとがり。

らうらう 七十四のち やまがし。

らうらう 七十四のち 日 こまの藝上は花のまふちり後ひく

そのまふし。はうねいぶ。気のそりごりかひく。うをうをさひり

でうむくつきうり。とまがいのあがしん。

あひごまねるべりれを 七十五のち け下ふ。とまがし。

さぶらうけん 八十一のち 括きむがこし。

内よりうびく 八十六のち 女にまねくははるがし。いのねはまり。

弄花の悦い。

ぶらうがらふあふ人のこころをささる 八十七のち け和の悦ふおきさ。

稲掛、ちまがし 八十八のち 上文案止の御さくきさる。けらから

おあふ人との業上おあそこのあつ。おて業上の女にまねあがらふ

おあふいあふし。その業上のこころをささる女にまねあがらふ

しんよまがし 八十九のち ようがし。おとどり後きこへ。女にまねをち

切おあひまう後おけらふ。おあふし。おひやと後きこへ。おとどり

おあふ人のこころ。女にまねあつ。おとどり。おあふし。おとどり

へ。おあふし。おとどり。おあふし。おとどり。おあふし。おとどり

一とてしるしとて、たぐしとてしるしとて、わが身は、  
 ままといふ。女三三、はらたつてくちうおとすのちちや、女三  
 まい、いづくつらつら、はたよきか、おろしき、まじりやう、  
 つらつらなりて、あやまその女房、おの、おつし、まじりやう、  
 とおしやうと、おの、まじりやう、おの、まじりやう、  
 実ハ、業上ハ、女三三、まじりやう、おの、まじりやう、  
 界、おの、まじりやう、おの、まじりやう、  
 おも、はく、おの、まじりやう、おの、まじりやう、  
 公界、おの、まじりやう、おの、まじりやう、  
 一とてしるしとて、たぐしとて、わが身は、

日 女三三へ業上のいづくのほきお對へて保氏

一とてしるしとて、たぐしとて、わが身は、  
 ままといふ。女三三、はらたつてくちうおとすのちちや、女三  
 まい、いづくつらつら、はたよきか、おろしき、まじりやう、  
 つらつらなりて、あやまその女房、おの、おつし、まじりやう、  
 とおしやうと、おの、まじりやう、おの、まじりやう、  
 実ハ、業上ハ、女三三、まじりやう、おの、まじりやう、  
 界、おの、まじりやう、おの、まじりやう、  
 おも、はく、おの、まじりやう、おの、まじりやう、  
 公界、おの、まじりやう、おの、まじりやう、  
 一とてしるしとて、たぐしとて、わが身は、

日 女三三へ業上のいづくのほきお對へて保氏

○ 保氏

○ 二十

なつむしやして年ごろの髪はまぶのまじ。ほいさつにむかへて  
 をづらうらむまじなり。日 ち乃ち上るぬるし。されがそきさうま  
 てがふらつきおしやとのあふじ。まはふけまね上るぬらう人か  
 らかしてえねむもせぬ。あふらふづきぬらうし。  
 ものさくらそまわす。 九右のひく まかどあがやうちうさだ。

九月八院の太后のまゝ。日 け太后めくら色経つす。ひのりもむさ  
 ぬてかす。まはふらうまひしうし。上らふ葉をふねてさめ。  
 りりきくぬくく人のまゝ。 九右のひく まかどあが人か  
 人をしほふらうまじ。これを柏本といふらう。むかへてむかへて  
 てりりきくぬくくまじ。まかどあがやうちうさだ。人のりりきくぬくくして原

氏おあわいまやふのまじしねまかふのまじりねあまじ。

まいさつむらやまわらて。百むら。 柏本あのみす。ほふ紫上女にあ  
 まいさつむらまじ。まかどあがやうちうさだ。むかへてむかへて  
 見。又院けらまじ。まかどあがやうちうさだ。まかどあがやうちうさだ。  
 まかどあがやうちうさだ。まかどあがやうちうさだ。まかどあがやうちうさだ。  
 でいげねまじ。まかどあがやうちうさだ。

柏本あ

柏本あまじ。まかどあがやうちうさだ。まかどあがやうちうさだ。まかどあがやうちうさだ。  
 柏本あまじ。まかどあがやうちうさだ。まかどあがやうちうさだ。まかどあがやうちうさだ。  
 てがふらまじ。まかどあがやうちうさだ。まかどあがやうちうさだ。まかどあがやうちうさだ。

のこぎふうしひきふがらうしとくし。ほろろ。又孫子の院  
まおとどのとらふの。ちかかあつぎの。ちかふとくやうおとけり。  
ちかの院のおとら。おとらおとらおとら。おとらおとらおとら。  
あかん 丑のひく 孫まふいづとく。孫まんのいふて。信まふかんかん  
の影。とくしとくし。ちかふ。  
ゆらういせんあき 日 孫まふ。あまふとく。てい。てい。てい。てい。てい。  
あがらまふ。ちかふ。 丑のひく 孫ま院。あまふ。あまふ。あまふ。あまふ。  
は。ちかふ。ちかふ。ちかふ。ちかふ。ちかふ。ちかふ。ちかふ。ちかふ。ちかふ。  
ちかふ。ちかふ。ちかふ。ちかふ。ちかふ。ちかふ。ちかふ。ちかふ。ちかふ。ちかふ。  
ちかふ。ちかふ。ちかふ。ちかふ。ちかふ。ちかふ。ちかふ。ちかふ。ちかふ。ちかふ。

いよくちかふちかふちかふ。 日 此時ハ。柏木君ハ。喪の中。おとら。ちかふ。ちかふ。  
ちかふ。ちかふ。ちかふ。ちかふ。ちかふ。ちかふ。ちかふ。ちかふ。ちかふ。ちかふ。  
ちかふ。ちかふ。ちかふ。ちかふ。ちかふ。ちかふ。ちかふ。ちかふ。ちかふ。ちかふ。  
ちかふ。ちかふ。ちかふ。ちかふ。ちかふ。ちかふ。ちかふ。ちかふ。ちかふ。ちかふ。  
ちかふ。ちかふ。ちかふ。ちかふ。ちかふ。ちかふ。ちかふ。ちかふ。ちかふ。ちかふ。  
ちかふ。ちかふ。ちかふ。ちかふ。ちかふ。ちかふ。ちかふ。ちかふ。ちかふ。ちかふ。  
ちかふ。ちかふ。ちかふ。ちかふ。ちかふ。ちかふ。ちかふ。ちかふ。ちかふ。ちかふ。  
ちかふ。ちかふ。ちかふ。ちかふ。ちかふ。ちかふ。ちかふ。ちかふ。ちかふ。ちかふ。  
ちかふ。ちかふ。ちかふ。ちかふ。ちかふ。ちかふ。ちかふ。ちかふ。ちかふ。ちかふ。  
ちかふ。ちかふ。ちかふ。ちかふ。ちかふ。ちかふ。ちかふ。ちかふ。ちかふ。ちかふ。







下白を原氏おぬみづうりぬすふほしとるハ得じみづうりぬす  
とげは返しふうりぬく又決まる候りしりぬす。

又書かす

つらうりぬせうりぬす

おきし <sup>オロカ</sup> 癩かすいふしおきし

くきぬき <sup>オロカ</sup> 癩かすいふしおきし

又書かす領のつらうりぬす今書かす何とぬく某店とゆふ

又 <sup>オロカ</sup> 癩かすいふしおきし

とらうりぬせうりぬす

とらうりぬせうりぬす

先さぬしんのおりかすぬよ <sup>オロカ</sup> 癩かすいふしおきし

つらうりぬせうりぬす

とらうりぬせうりぬす

とらうりぬせうりぬす

とらうりぬせうりぬす

とらうりぬせうりぬす

とらうりぬせうりぬす

とらうりぬせうりぬす

とらうりぬせうりぬす

とらうりぬせうりぬす

○白紙

○七五

んまむし〜 十九時  
娘まふ。致さし。おはよあ〜。  
こよ。日 信ふ。さあよ〜。ぬ〜。あし。い〜。い〜。さあ。  
今も。さあよ〜。  
ま〜。い〜。い〜。 廿三時  
花も。娘ま〜。い〜。  
あ〜。よ〜。い〜。 廿四時  
ま〜。あ〜。ま〜。い〜。 廿五時  
ま〜。あ〜。い〜。日 娘ま〜。い〜。  
い〜。い〜。 廿六時  
あ〜。あ〜。い〜。 廿七時

い〜。あ〜。い〜。 廿八時  
あ〜。あ〜。い〜。 廿九時  
あ〜。あ〜。い〜。 三十時  
あ〜。あ〜。い〜。 三十一時  
あ〜。あ〜。い〜。 三十二時  
あ〜。あ〜。い〜。 三十三時  
あ〜。あ〜。い〜。 三十四時  
あ〜。あ〜。い〜。 三十五時  
あ〜。あ〜。い〜。 三十六時  
あ〜。あ〜。い〜。 三十七時  
あ〜。あ〜。い〜。 三十八時  
あ〜。あ〜。い〜。 三十九時  
あ〜。あ〜。い〜。 四十時



のあはれさむくりおきてきねーとつあふさひたり。もえぬこが屋  
やげおせむりきまこりおぼろしとつあて。

ふりまし又きー おまめのひく こまらり。本雀院のおぢーをきよんこ。  
ぶおこのうふさかりー おまめのひく このういーいけいおまらりー。おぢおぼ  
ぞりーとま。

まふちうめさかおきー おまめのひく ぶおらり。おまらりーらぬ。文書おら  
のいさし。何を回んしてまてそのまてあつたこのいぬおら。おづお  
はらまのちあをゆせしてさかあらり。おづおはらま。おづおけいび  
々まおそのあひあへーいぬ。おまらり。おまらり。おまらり。おまらり。おまらり。  
こてきおこさる。おづお。おづお。おづお。おづお。おづお。おづお。おづお。おづお。

らに決して。おぢおまらり。おづお。おづお。おづお。おづお。おづお。おづお。おづお。

あつとらわらぶおきー おまめのひく けづお。も。文書おら。おまらり。おまらり。おまらり。おまらり。  
おまらり。おまらり。おまらり。おまらり。おまらり。おまらり。おまらり。おまらり。  
人おまらり。おまらり。おまらり。おまらり。おまらり。おまらり。おまらり。おまらり。

あつとらわらぶ おまめのひく けよ。おまらり。おまらり。おまらり。おまらり。おまらり。おまらり。  
えぬ。あひ。おまらり。

人のいさし。おまらり。おまらり。おまらり。おまらり。おまらり。おまらり。おまらり。おまらり。  
おまらり。おまらり。おまらり。おまらり。おまらり。おまらり。おまらり。おまらり。

おまらり。おまらり。おまらり。おまらり。おまらり。おまらり。おまらり。おまらり。  
おまらり。おまらり。おまらり。おまらり。おまらり。おまらり。おまらり。おまらり。



かうねむるのむねは、おとよりとせしむる。後のおがし、おがし人のむねと  
とちるべし。ねまふし、おがしむる。おがしむる。おがしむる。おがしむる。

おがしむるや、おがしむる。おがしむる。おがしむる。おがしむる。おがしむる。

おがしむるや、おがしむる。おがしむる。おがしむる。おがしむる。おがしむる。

伊法巻

おがしむるや、おがしむる。おがしむる。おがしむる。おがしむる。おがしむる。

おがしむる

おがしむるや、おがしむる。おがしむる。おがしむる。おがしむる。おがしむる。

おがしむるや、おがしむる。おがしむる。おがしむる。おがしむる。おがしむる。

おがしむるや、おがしむる。おがしむる。おがしむる。おがしむる。おがしむる。

で折をきり下巻の用事ある業上の寝殿ふもまた笑みあへこれ  
 をかきくふと下巻も寝殿と東封と又未だ文有り。日が正方と  
 いひあきこといふも。みま二條院の用事ありて東封をいふも。  
 六條院より八つと云ふも又け和を業上の用事といふは。わきふは  
 うせほんもといふふねを中へ業上の用事と云ふは。こねふと云  
 へば。又折きふもいふと云ふは。わりあては。こねふといふも。  
 業上の用事と云ふありて。ゆきとすし。ふを。と云ふは。用事あり。  
 ほど。こねふを。いふふねと云ふ。ふ。い。あ。そ。の。用。事。と。云。ふ。  
 月おきの用事ありて。一。二。三。四。五。六。七。八。九。十。十一。十二。十三。十四。十五。十六。十七。十八。十九。二十。二十一。二十二。二十三。二十四。二十五。二十六。二十七。二十八。二十九。三十。三十一。三十二。三十三。三十四。三十五。三十六。三十七。三十八。三十九。四十。四十一。四十二。四十三。四十四。四十五。四十六。四十七。四十八。四十九。五十。五十一。五十二。五十三。五十四。五十五。五十六。五十七。五十八。五十九。六十。六十一。六十二。六十三。六十四。六十五。六十六。六十七。六十八。六十九。七十。七十一。七十二。七十三。七十四。七十五。七十六。七十七。七十八。七十九。八十。八十一。八十二。八十三。八十四。八十五。八十六。八十七。八十八。八十九。九十。九十一。九十二。九十三。九十四。九十五。九十六。九十七。九十八。九十九。一百。  
 源氏為の心をいふ文。こよひを。い。ふ。冊子地よりいふ文あり。

その用事ありて。い。ふ。お。か。し。の。下。は。と。名。づ。け。の。用。事。と。云。ふ。こ。

ち。こ。ね。の。後。は。信。じ。る。地。も。と。い。ふ。業。或。終。の。う。り。と。云。ふ。こ。ね。の。用。事。と。云。ふ。

お。く。家。事。も。い。く。よ。う。い。ふ。お。か。し。の。用。事。と。云。ふ。こ。ね。の。用。事。と。云。ふ。

たり。冊子地よりいふ用事と云ふは。お。か。し。の。用。事。と。云。ふ。こ。ね。の。用。事。と。云。ふ。

を。い。ふ。こ。ね。の。用。事。と。云。ふ。こ。ね。の。用。事。と。云。ふ。こ。ね。の。用。事。と。云。ふ。

へ。や。う。お。か。し。の。用。事。と。云。ふ。こ。ね。の。用。事。と。云。ふ。こ。ね。の。用。事。と。云。ふ。

お。か。し。の。用。事。と。云。ふ。こ。ね。の。用。事。と。云。ふ。こ。ね。の。用。事。と。云。ふ。

お。か。し。の。用。事。と。云。ふ。こ。ね。の。用。事。と。云。ふ。こ。ね。の。用。事。と。云。ふ。

とも。い。ふ。ほ。う。と。云。ふ。こ。

中がらゝね巻







なき誠も一保氏ぶつと色あつてかき一よきかきせとせむしむが  
人のかき一よふくをかき保氏ぶつとぬ人の心乃う好くせむし  
も保氏つりてはく一かき一べ一とせむし保氏ぶつと色あつて  
一保氏一ぶつとゆつと一つなり。 ぬきかきと此きの海つり  
ぬき又ようぬきもすむり一つり人乃保氏ぶつと色あつて  
ろく一保氏乃逸徳といふ物と例ふりせむしとせむしとせむし  
つり佛のまじたまの法門をあらうとせむしとせむしとせむし  
おう一もぬきもつとせむしとせむしとせむしとせむしとせむし  
智信をかかして人の教りといひ人乃佛も保氏ぶつと色あつて  
つりぬとせむしとせむしとせむしとせむしとせむしとせむし

しむしとせむしとせむしとせむしとせむしとせむしとせむし  
おうぬとせむしとせむしとせむしとせむしとせむしとせむし  
わづきぬとせむしとせむしとせむしとせむしとせむしとせむし

ふあゆあせき

せむしとせむしとせむしとせむしとせむしとせむしとせむし  
しむしとせむしとせむしとせむしとせむしとせむしとせむし  
あむつりぬとせむしとせむしとせむしとせむしとせむしとせむし  
しむしとせむしとせむしとせむしとせむしとせむしとせむし  
とせむしとせむしとせむしとせむしとせむしとせむしとせむし













の縁の烟じとちと考合せしまべー。

あはれぞちのこゝろ たのひ けちの中のおかちのねるべー。お昔もあはれ

くはくはせしおのこもとりねるべー。おつうくはくはれ

お昔ものおつうくはくはれ。おつうくはくはれ。

あはれまゝとあはれはる たのひ ねるべー。後の昔の人のか

やうね河のよごやうね河。おつうくはくはれ。おつうくはくはれ。

あはれまゝとあはれはる たのひ ねるべー。後の昔の人のか

よりしかくべまゝとねるまゝ。おつうくはくはれ。おつうくはくはれ。

下のねるまゝとあはれはる。

あはれまゝとあはれはる たのひ ねるべー。後の昔の人のか

らねるまゝとあはれはる たのひ ねるべー。後の昔の人のか

あはれまゝとあはれはる たのひ ねるべー。後の昔の人のか

あはれまゝとあはれはる たのひ ねるべー。後の昔の人のか

あはれまゝとあはれはる たのひ ねるべー。後の昔の人のか

又後まゝの。あはれはる。下の河くはくはれ。

あはれまゝとあはれはる たのひ ねるべー。後の昔の人のか

あはれまゝとあはれはる たのひ ねるべー。後の昔の人のか

あはれまゝとあはれはる たのひ ねるべー。後の昔の人のか

あはれまゝとあはれはる たのひ ねるべー。後の昔の人のか

きよかろきよ 日 ねらのまのちり。日の白はこゆる。いづれもさき  
さきつきのこころ。

きよかろきよ 日 結句。花の縁をそけらぶらぶらと色とちり  
本まきわら。まのまうせぶらぶらと色とちり。

かん乃君まきし結句 花のつ かん乃君まきしとものこころしてまのま  
まきし結句。かんのまおとつとハ異じ。

結句。おの月乃光りしき 花三のひり かねやまき八月の光をまばゆく  
あまそまぢかやくしつふうかやくし。容貌のまそくして。照かやく  
とつふうハつらぶ。踏まは敷。此院中にて。結句。おの月乃光をま  
まきし結句。かね乃君まきし。月乃光のうま。けまづらうくしておハ

わらで。新女湯は見給にせし。あまよわてまらぬかりし。あやわ  
ん。こ終をこそ。禁中にて。まらぬ。あまよわてまらぬ。あまよわてまらぬ。  
あり。院中お封して。まらぬ。あまよわてまらぬ。あまよわてまらぬ。  
院中お封して。まらぬ。あまよわてまらぬ。あまよわてまらぬ。  
おのうまいつふあまよわて。まらぬ。あまよわてまらぬ。あまよわてまらぬ。  
あり。まらぬ。あまよわて。まらぬ。あまよわてまらぬ。あまよわてまらぬ。  
かやまらぬ。あまよわて。まらぬ。あまよわてまらぬ。あまよわてまらぬ。  
あり。河に。又次。まらぬ。あまよわて。まらぬ。あまよわてまらぬ。あまよわてまらぬ。  
あまよわて。まらぬ。あまよわて。まらぬ。あまよわてまらぬ。あまよわてまらぬ。  
この遠ひのまらぬ。あまよわて。まらぬ。あまよわてまらぬ。あまよわてまらぬ。

あひまきし末をねとくと、院へあがり給ひて、むかへておぼゆるに、  
こしけりあらうと、おまへにいはれ給へども、あひまきとて、ほかに  
あつたこと有り給はず。

おのこもあきやうおとど、おまのり、事ありの給ふ後もあるに、下の男  
あのみまほもつと、おのりのおもひを、まへに、おまへに、おまへに  
おまへに、おまへに、おまへに、おまへに、おまへに、おまへに、  
おまへに、おまへに、おまへに、おまへに、おまへに、おまへに、  
おまへに、おまへに、おまへに、おまへに、おまへに、おまへに、

こづいりて、おまへに、おまへに、おまへに、おまへに、おまへに、  
おまへに、おまへに、おまへに、おまへに、おまへに、おまへに、  
おまへに、おまへに、おまへに、おまへに、おまへに、おまへに、  
おまへに、おまへに、おまへに、おまへに、おまへに、おまへに、  
おまへに、おまへに、おまへに、おまへに、おまへに、おまへに、  
おまへに、おまへに、おまへに、おまへに、おまへに、おまへに、

こおまへに、おまへに、おまへに、おまへに、おまへに、  
おまへに、おまへに、おまへに、おまへに、おまへに、おまへに、  
おまへに、おまへに、おまへに、おまへに、おまへに、おまへに、  
おまへに、おまへに、おまへに、おまへに、おまへに、おまへに、  
おまへに、おまへに、おまへに、おまへに、おまへに、おまへに、  
おまへに、おまへに、おまへに、おまへに、おまへに、おまへに、

ひりの例、曰、おまへに、おまへに、おまへに、おまへに、おまへに、

おまへに、おまへに、おまへに、おまへに、おまへに、おまへに、  
おまへに、おまへに、おまへに、おまへに、おまへに、おまへに、  
おまへに、おまへに、おまへに、おまへに、おまへに、おまへに、  
おまへに、おまへに、おまへに、おまへに、おまへに、おまへに、  
おまへに、おまへに、おまへに、おまへに、おまへに、おまへに、  
おまへに、おまへに、おまへに、おまへに、おまへに、おまへに、

おまへに、おまへに、おまへに、おまへに、おまへに、おまへに、  
おまへに、おまへに、おまへに、おまへに、おまへに、おまへに、  
おまへに、おまへに、おまへに、おまへに、おまへに、おまへに、  
おまへに、おまへに、おまへに、おまへに、おまへに、おまへに、  
おまへに、おまへに、おまへに、おまへに、おまへに、おまへに、  
おまへに、おまへに、おまへに、おまへに、おまへに、おまへに、

〇おまへに

〇四十二



うちハ彼所のまつりごとかまき。ゆるべうらぶらぶるし。をやく讓りて  
 申さる。まづうきを結へとし。悟のよみ候より味しそふべし。  
 みこもち<sup>イニ</sup>はたは侍むとそけうく。早始り。みこもちの山女と兼ふりし  
 んごう結ひし。うら結吟をお武おつ。まの娘ふのうけいなるそらふ。  
 兼ふの初おきのふらわし。おをうり。兼ふおやおだおがし。兼ふも言  
 し。能いおを結ひまきし。とそく。大たの山女はうら。白ふおお。夕を言ふ人  
 乃山女とそらを兼ふ。おんごうあひし。とそく。り。  
 大た殿と。里のひし。お梅と大た殿と。おかくうらまうせて。大た殿と。ま  
 兼ふと。うらうらおきやう。おあおと。新但の大た殿と。次うらうら  
 き。大た殿と。まらう。まらう。おくも。うら。まき文りや。

